

農繁期

レポート

令和7年 8月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん



カメムシの防除はドローンで適期に作業できました。渇水の心配もありましたが、ギリギリのところ恵みの雨が降り安心しました。近頃は雨が増えましたので早めの落水をして稲刈りの準備に入りました。早い田んぼは9/1から刈りはじめます。

8月の作業内容等

1. 出穂

茎の中から、さやを割ってうす緑色の穂(ほ)が出てきます。このことを出穂(しゅつすい)といいます。そして、この穂にお米の花が咲き、受粉した粳(もみ)がお米へと成長していきます。



出穂直後の柔らかい粳

2. 登熟

受粉した粳は、光合成で作られたブドウ糖が、酵素の働きによってデンプンに変わり、少しずつ実っていきます。お米は、太陽のエネルギーをたっぷりと蓄えて、私たちの暮らしや活動を支えてくれる頼もしい存在でもあります。



成熟しつつある粳

3. 高温障害と夜間気温

デンプンの粳への蓄積は夜間に行われます。ところが、夜間気温が高い場合、稲の呼吸が活性化しデンプンをエネルギーとして消費してしまうため、蓄積がうまくいかなくなり未熟粒になってしまいます。



成熟した粳

4. イネカメムシの防除

近年、イネカメムシによる斑点米被害が増加しています。要因として、温暖化による成虫の越冬成功率の上昇、繁殖サイクルの短縮化などがあげられています。現在、農協や自治体を挙げて、発生予測や防除方法の情報提供を強化しています。



ドローンを使った防除